

明日なき2人の青春を描いて
 史上に輝く愛の名作！
 いまださめやらぬ
 ニューブリントの興奮が
 鮮烈な感動を呼び
 いま甦える衝撃のラスト！

BONNIE & CLYDE



ボニーとクライド

ウォーレン・ビーティ
 フェイ・ダナ主演
 ジーン・ハックマン監督
 巨匠アーサー・ペン

テクニカラー

俺たちに明日はない

ワーナー・ブラザー ス映画 From Warner Bros. A Warner Communications Company

新橋別上車・新橋センター前 伊勢丹横

東京文化会館映画

8月下旬ロードショウ

銀座東急 (571) 3411

新橋 ロマン劇場 (351) 2941

東急 レックス (407) 7019

* 特別鑑賞券 ¥500

東京レックスの月曜は3:00/6:00にて終了以後文化会館

クライド・ハロウ



ハリウッド版の「パイボーイ」といわれる彼だが、演技者としても代表作になるこの作品の製作で、報酬金は20倍以上という。

ホニー・バーカー



当初ピーティはこの役を他の女優に回すつもりで、決定していたが、彼同様キャリア・ザン門下生の彼女を扶植した。

ハック・ハロウ



今や人気絶頂の彼も、この作品がなかったら今日の彼はないと主張している。デビュー作の時主演だったピーティに惚れた。

C・W・モス



個性的なマサチューセッツの演技で、ハリウッドにその人ありといわれる彼も、この作品がなければ飛躍のきっかけとなった。

フランシ



演技になりがちなこの作品に、ゴダードとともに独特の個性と見事な演技でユーモアを加え、アカデミー助演女優賞を受賞した。

監督アーサー・ペン



アメリカン・ニューシネマの巨匠。監督した作品すべてが代表作として記録される彼の中では代表作の傑作である。

テクニカラー

俺たちに明日はない

■解説

公開と同時に、その鮮やかなラストシーンで日米マスコミ界に賛否両論、ケンケンゴウゴウの大論争を巻き起こし、その年のアカデミー賞10部門にノミネートされた、アーサー・ペン監督の最高傑作がこれだ。

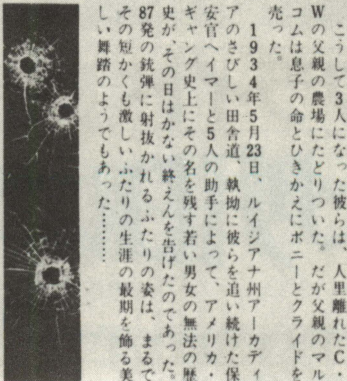
主役のクライドに扮するウォレン・ビーティは、その見事な演技のほかに、初めての製作者としても、当時無名に等しかったフレイ・ダナウエ、ジョン・ハックマン、マイケル・J・ボラー、そしてこの作品でアカデミー助演女優賞を受賞したエステル・バーソンズ等、今や大変な大スターとなっている彼らを、共演陣に配し、監督をはじめ、ディビッド・ニューマン、ロバート・ベントンの共同脚本に目をつけ、「地上より永遠に」に続いてこの作品で2度目のアカデミー賞を受けた撮影のバーネット・ガフワイ、美術のティーン・



アメリカン・ニューシネマの最高傑作
鮮烈にみえる衝撃のラスト

■ストーリー

クライド・ハロウ(ウォレン・ビーティ)が、なれた手つきで道ばたに駐車中の車を盗もうとしているところを、近くの二階の窓からのぞいていた可愛い娘が声をあげて邪魔立てした。それがボニー・バーカー(フレイ・ダナウエ)だ。そのまなこを見合せて頬笑み合ったふたりは、そのまま町へ。そこで勇氣のほの見えるためにクライドは手近な食料品店へ押し入り、あざやかな手なみで金庫の金をよこし、また、鼻つぐの強いボニーもすっかり感心して、これこそ私の探してい



車をつかばらうとふたりで町を飛び出した。ここに1930年代に悪名高いボニーとクライドが誕生したのである。

町から町へ気のむくままに、犯行をくりかえし、次第に有名になったふたりは、車にくわしい小悪党C・W(マイケル・J・ボラー)と、クライドの兄バック(ジョン・ハックマン)とその妻フランシ(エステル・バーソンズ)を仲間に入れ、パロウ・ギャンクと呼ばれる各地を暴れまわった。しかしこの仲間も内部から乱れはじめた。きかんとは負けず劣らずのボニーとフランシが、事あるごとに対立したのだ。

そうしながらもテキサスからミズーリへ、そしてカンサス・ネブラスカ、アイオワへと活躍舞台を広げていった彼らだったが、ついに悪運つきたか、アイオワのテキサスターで5人はとうとう保安官たちに囲まれてしまった。銃口がいつせいに火を吹いた。激しい射ち合いの末バックが重傷を負った。ボニーとクライドとC・Wは何と逃げたが、フランシはその場を動かさずにはしなかった。死んで行くバックを見とるためだった。じやじや馬車のフランシも、やっぱり心底では人なみの夫おもしろいやさしい女房だったのだ。

こうして3人になった彼らは、大里離れたC・Wの父親の農場にたどりついた。だが父親のマルコムは息子達の命とひきかえにボニーとクライドを売った。

1934年5月23日、ルイジアナ州アカデミーのさびしい田舎道、執拗に彼らを追い続けた保安官ヘイマーと5人の助手によって、アメリカ・ギャンク史上にその名を残す若い男女の無法の歴史が、その日はかない終えんを告げたのである。87発の銃弾に射抜かれたふたりの姿は、まるでその短かくも激しいふたりの生涯の最期を飾る美しい舞踏のようでもあった……

党C・W(マイケル・J・ボラー)と、クライドの兄バック(ジョン・ハックマン)とその妻フランシ(エステル・バーソンズ)を仲間に入れ、パロウ・ギャンクと呼ばれる各地を暴れまわった。しかしこの仲間も内部から乱れはじめた。きかんとは負けず劣らずのボニーとフランシが、事あるごとに対立したのだ。